

あひま

段戸の山・矢矧の流れ

第57号

2024年4月

会長挨拶



岡崎高校
同窓会会長
増田義彦
(高23回)

新たな年度が始まり、愛知県立岡崎高校同窓会の一員として皆様にご挨拶申し上げます。

まずは、本年1月1日に発生いたしました能登半島地震において亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族ならびに被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。同窓生の中には、ご本人やご家族、ご親類、お知り合いなどが被災されている方がいらっしゃるのではないかと危惧しています。被災された皆様には一日も早く平穏な日常生活が戻るよう願っております。

私は昨年6月の同窓会総会において推挙・選任され、細井前会長の後を継いで同窓会長に就任いたしました。皆様のご支援とご協力によって、この会が今後も長く「会員相互の親睦を図り、旧交を温め、かつ母校との連絡を緊密に保

ち、母校の発展に寄与する」ことができ、よき仲間が集う岡崎高校同窓会として発展するように尽力してまいります。

さて、皆さまのお手元にお届けしました同窓会報「あ・江山」57号は、毎年約25000人の同窓生に郵送でお送りする重要なコミュニケーションの一環です。この会報が、遠く離れた仲間間に想いを馳せたり、学生時代に思い悩んだことや漠と抱いた希望を思い出したり、在校生の活躍に気持ちを熱くする、よすがとなれば幸いです。ぜひ会報内容を読んで頂きたく思います。お手元に届いた薄水色の封筒をご覧になられただけでも同窓の絆を感じていただけていると確信しております。なお、今号から紙面をA4に拡大しページも増やして読みやすくなるよう工夫しております。

昨年6月に3年生全員の探究活動発表会を岡高校舎で聴講させていただきました。これは、SSH活動の一環として生徒が自分でテーマを自由に設定して、3年間を通じて探究活動を行うという教育で、岡高では、文系生徒まで含めた物事を深く思考し表現する教育として実施されてきています。発表会の日は、3年生の晴れ舞台です。聴



総合的な探求の時間

衆は全学年の生徒であり、全ての教室を会場として開放し、所狭しと熱のこもったプレゼン、質疑が続きます。私の時代には無かった、すばらしい教育プログラムが根付いていて、未来を託せる生徒がここでは育っていると大変心強く思えた一日でした。さらに、この後、生徒たちは学術論文形式のレポートを作成して提出しています。中には英語で論文を作成する生徒もいます。今年度からは教育全体がさらに深化して、文理を超えた「岡高リベラルアーツ」の獲得を目指した教育として進展すると聞いています。これからの時代を拓く人材が育つ学び舎がさらに発展するとたいへん期待しています。

最後に、同窓生の皆様からのご支援、ご寄付に心からの感謝を申し上げます。皆様とご縁に感謝し、共に素晴らしい同窓会を築いていけることを楽しみにしております。



SSHの日発表会の様子

恩師のたより

教職を退きて



祖父江 義信

昭和47年に母校へ新任教員として赴任したときは旧来の入試制度でしたが、翌年学校群制度が始まり、高校28回生を担任したのち、続いて30、32、33、36、37、38回生を送り出し、最後に複合選抜制三年目の46回生を担当して、三つの異なる制度を経験しました。在勤22年のうち16年間は学校群で、開始から終焉までを見届けました。

学校群制度は、入学時に相手校と均等に生徒を振り分けるというもので、両校ともライバル意識を持つて指導に当たったのでした。学力向上のために切磋琢磨し、岡崎学校群全体のレベルが向上したことは間違いありません。文系クラスでは数学の苦手意識を持つている人もいましたが、授業を通して数学的なものの見方・考え方を身に付けてもらおうと、数列や確率の楽しい授業を心掛けました。少しでも成果が上がっていれば幸いです。

岡高転出の後、愛知県青年の家、安城東高、豊田西高、豊野高と転任して、教職最後の赴任先は奇しくも学校群の相手校、岡崎北高でした。たいへん懐かしく学校群当時を思い出しながら勤めました。

退職後は教職から退き、寺の住職として懸案の本堂再建に取り掛かりました。在職中に体験した周年行事や学校運営のノウハウが大いに参考になり、スムーズに進めることができました。冷暖房の効いた本堂での勤行や法要を気持ちよく行えるようになり、昨年から住職を息子にバトンタッチし、肩の

荷が下りたところです。

さて、本堂が完成すると、堰を切ったように様々な役が回ってきたのですが、いずれも実務の伴うものばかりで多忙を極めました。現在も継続しているのは、保護司です。罪を犯した人たちの更生保護や犯罪予防、社会を明るくする運動に携わっています。担当した保護観察を受ける人の事犯は薬物乱用、窃盗、暴走行為などで、取り巻く生活環境に起因する場合が多く、軽率であったり、どこかで菌車が狂ったのだと思います。職業柄、説教してしまいがちですが、辛抱強く話をよく聞き、再犯防止を促しているところです。

小学生の頃始めた趣味の切手収集は、六十年も継続してますます専門化しています。伝統郵趣として「日本手彫切手」、郵便史研究で「三河国岡崎」、テーマ収集として「釈迦と仏教」のコレクションに取り組んでいます。

我が国最初の「手彫切手」の製造技術は諸外国とは異なり、手作業で彫られた腐蝕凹版印刷の切手です。そのため、一枚一枚に細かな差異やエラーがあるので、切手をルーペで眺めると、当時の彫師など職人たちの人間味溢れる、ほのぼのとした雰囲気を感じられます。

英文で説明を書き込んだ128ページに及ぶ作品を、全国切手展を経て、国際切手展にも何度も出品してきました。直近では郵便百五十年を記念して「日本国際切手展2021」が十年ぶりに横浜で開催されました。ところが、コロナの影響で外国の審査員が来日できなくなり、競争出品の準備をしていたチャンピオンクラス自体が取り止めとなり、想定外の招待出品（コートオブオナー）となつてしまいました。収集するだけでなく、手彫切手の単片を集積してシートを再構成する方法で、関東大震災で焼失した印刷原版の研究をしています。考古学のように、面白い作業です。

「三河国岡崎」の作品には、幕末の飛脚便から文明開化の頃の郵便や消印、戦時中の郵便物など、貴

重なものも多く含まれています。岡崎局初期の「検査済」印付きの郵便物が一点だけ報告されていますが、画像は示されていないので、この幻の封筒を一目見たいと探しています。まさに男のロマンですね。

切手収集は、仕事で多忙を極めた私の心を癒やす一服の清涼剤でした。趣味のお陰でこれまで心の健康を保てたと思っています。

私の座右の銘は、司馬遷の「史記」にある「桃李不言、下自成蹊」（桃李言わざれども、下おのずから蹊をなす）です。そんな桃や李のような人間でありたいものです。何歳になっても、健康に留意しながら精進努力して過ごしたいと思っています。

令和五年度二中・岡中・岡高 同窓会懇親会開催報告

Jリーグと細川連立政権が発足した30年前に岡崎高校を卒業した高46回生が中心となり、令和5年6月11日（日）、岡崎市竜美丘会館にて同窓会懇親会を開催しました。

古希をお迎えになられた高24回生（昭和47年3月ご卒業）、定22回生（昭和47年3月ご卒業）をお招きし、同窓会役員の皆様、諸先輩方、恩師の皆様、そして旧友たち総勢400名を超える方々にお越し頂きました。

卒業後30年目を迎える卒業年次が中心幹事となり受け継ぐ伝統の同窓会懇親会ですが、コロナ禍で令和2年、3年と開催が見送られ、令和4年も制限ある中での開催でした。本年度は、比較的落ち着いた情勢の中、例年のスタイルに戻つての開催を行うことができました。代表幹事が地元を離れ、遠い北の地で暮らしていることから会の準備が



心配されましたが、コロナ禍で一気に一般的になったオンライン会議を駆使しながら、地元在住の幹事と協力しながら準備を進めました。また、先輩から受け継がれてきた資料を参考とさせていただき、無事に開催することができました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、会場内は熱気たっぷりで開始前から談笑が広がっていました。

オープニングは近藤恵子先生率いる岡崎混声合唱団の皆様が素晴らしい歌声を披露して下さいました。一番印象的であったのは「ライオンキング」でした。会場全体を立体的に使い、目の前にサバンナの情景が広がっているようでした。

その後、増田同窓会長、柴田校長、古希代表の本多様よりご挨拶をいただき、成田同窓会副会長の乾杯のご発声で会がスタートしました。会場の雰囲気は非常に和やかであり、時が経つのを忘れるくらいでした。最後は近藤恵子先生の指揮、高46回生のピアノ伴奏により恒例の校歌斉唱を行い、会場が一体となって締めとなりました。

懇親会の後は、高46回生の同年会が開催されました。現在の岡崎高校の様子をまとめたスライドショーや当時を振り返るクイズやエピソード披露、ラグビー部員を中心とした応援披露、生演奏による「我ら若駒」斉唱などが行われ、大いに盛り上がりました。

会を運営するにあたり、約1年の間、同級生の皆が自主的に集まりながら、自分ができることを自律的に高い準備してくれました。誰かに言われなくても、こうした動きが自然にできることに「さすが皆、岡崎高校の卒業生だな」と改めて感動しました。最後に、この会に携わって下さいました全ての



方々に感謝を申し上げると共に、この温かい繋がりが今後も末永く受け継がれていくことを心より願っております。



神谷憲一（高46回）

令和4年度 同窓会会計決算報告

一般会計

収入総額 5,628,991円 支出総額 5,618,963円 差引残額 10,028円

収入の部内訳

科目	収入済額(円)
繰越金	481,094
同窓会活動協力金	2,610,283
同窓会入会金	2,039,230
特別会計より	400,000
雑収入	98,384
合計	5,628,991

支出の部内訳

科目	支出済額(円)
運営費	411,958
事業費	5,101,955
予備費	105,050
合計	5,618,963

特別会計

収入総額 16,394,460円 支出総額 400,000円 差引残額 15,994,460円

収入の部内訳

科目	収入済額(円)
前年度残額	16,394,289
受取利息	171
合計	16,394,460

支出の部内訳

科目	支出済額(円)
一般会計へ	400,000
繰越金	15,994,460

第51回 首都圏段戸会

例年よりも幾分暖かい

陽の光が降り注ぐ秋晴れのもと、2023年10月28日アルカディア市ヶ谷にて第51回首都圏段戸会総会・懇親会が開催されました。高6回から高72回まで幅広い世代の会員123名が一堂に会し、オンラインでも約30名のご参加がありました。加えて、今回はコロナ禍以降初めて恩師招聘が復活し、打田秀行先生（英語）、勝田由美子先生（英語・高38回）にも会場までお越しいただきました。恩師や友人との再会に胸を弾ませながら会場の扉を開くと、そこはコロナ前の活気を取り戻しつつある和やかな空気に包まれていました。



総会は段戸会の内山田会長（高21回）のご挨拶から始まりました。活動がままならなかったコロナの時期も会員からの寄付や自主的なサークル活動でなんとか段戸会の繋がりが保たれたことに謝意を示すとともに、コロナからの完全脱却を目指そうと力強く呼びかけられました。次に、岡高同窓会の増田会長（高23回）より、同窓会の持続可能性の確保が目下の課題であり、段戸会とも連携していきたいというお話がありました。岡高の柴田校長からは、コロナ禍においても岡高では学校行事をやりぬいたこと、登山部女子はじめ複数の部活が全国大会出場を果たすなど生徒の地道な努力が開花していることが紹介されました。「自らの幸せを追求し、それを他者にも及ぼすこ



うお話がありました。岡高の柴田校長からは、コロナ禍においても岡高では学校行事をやりぬいたこと、登山部女子はじめ複数の部活が全国大会出場を果たすなど生徒の地道な努力が開花していることが紹介されました。「自らの幸せを追求し、それを他者にも及ぼすこ

とができる『自利利他』の精神を実践できる人材をこれからも輩出し続けられるよう、その基盤を強固なものにしたい」と締めくくられました。

その後、招聘恩師の紹介があり、続いて令和4年度会計報告・会計監査報告、再任の内山田会長を含む新四役（正副会長・正副事務局長）が承認されました。

講演の時間では、東京五輪において日本代表チームの陸上競技監督を務めた麻場一徳氏（高31回）が「オリンピックの舞台裏―日本陸連強化委員会の取り組み―」をテーマにお話ししてくださいました。日本の400メートルリレーの強さの秘訣たる新アンダーハンドパスの誕生過程、日本陸連の選手育成の理念などを伺うことができ大変興味深かったです。麻場先生が繰り返し強調されたのが「スポーツを通じて社会貢献できる人材を育てて、日本社会における陸上競技の価値を高めていきたい」ということでした。目先の実績だけを追求するのではなく、選手一人ひとりの人生や陸上競技界の今後まで見据えた高い視座に感銘を受けました。

また、今回初の試みとして、岡高の教室と総会の会場をオンラインで繋ぎ、現役の陸上部員の生徒が麻場先生に質問する時間も設けられました。先輩方が親身に若手の相談のつてくださるといふ段戸会の伝統が、私たちよりもさらに若い世代に伝播したことを感じる一場面でした。

講演後は、桃井さん（高38回）によるピアノ演奏、同期の柘植君（高70回）による母校への力強いエール、校歌斉唱で総会は大団円を迎えました。

こうして会場が温まる中で福山前会長（高19回）の乾杯のご発声とともに始まった懇親会。世代を超えて岡高での思い出に花を咲かせたり、互いの近況を報告し合ったりする姿が会場内のいたる所で見られました。私は打田先生、勝田先生と久しぶりにお話することができ、卒業後も私たちのことを気にかけてくださっていたことを感じて、改めて感謝の念を抱きました。最後は、織田副会長（高26回）の

「若い方の知恵や力を借りて段戸会のあり方もどんどん進化させていきたい」とのご挨拶をもって名残惜しくも閉会となりました。

大池真太郎（高70回）

第19回 そてつ会

令和5年7月15日（土） 15時より、第19回そてつ会を開催しました。

当日は来賓として、柴田校長先生のご出席下さった他、かつてのように現役職員の先生方や旧職員も参加された。

卒業生の参加者は定22回23回及び役員と次年度代表幹事がほとんどだったが、健康でこの日を迎えられた喜びと共に古希（実年齢ではすでに七十代半ば過ぎの方々）をお祝いすることが出来た。

歴代卒業アルバムの写真を利用したスライドショーは好評で少しずつ雰囲気に戻りつつあることを感じた。今回は定24回の皆様を中心に、卒業したばかりの定73回卒業生にも参加を呼びかけ、いつもながらの幅広い世代にわたるそてつ会を開催する予定である。

大久保玉恵（高27回）

第27回 豊川段戸会

◇開催日時 令和5年10月15日（日）

11時～14時（於：謝謝豊橋駅前店）

◇出席者数 28名

◇内 容 総会（講演会）及び

総会後の懇親会

◆早稲田大学客員教授

大塚耕平氏

テーマ 三河と尾張と名古屋

「どうする家康をどうみる」

北村 誠（高24回）



幸田段戸会

主に二つの事業を行いました。

「会員相互の親睦」を目的としたまちの魅力再発見事業。11月14日、12名の参加を得て新東工業(株)幸田事業所を訪問、安全で快適な作業空間作りを事業展開する本社には、多くの新しい発見がありました。これに引き続いて同日開催された総会・懇親会には、増田義彦同窓会会長並びに豊川段戸会川合恵治副会長にご参加頂き、楽しいひと時となりました。

当段戸会のもう一つの事業の柱は、「地域貢献」です。大型絵本と大型紙芝居を、幸田町図書館に寄贈しました。これらを使った幼児向けの読み聞かせボランティア活動は、3年目となりました。2月18日9名が参加、子どもたちの目の輝きが、活動の喜びとなりました。

今後、事業に参加する仲間を増やし、さらににぎやかな活動に発展させたいと頑張っています。

鈴木啓子（高20回）

部活動OB会紹介（バレー部）

段戸クラブの令和5年度の活動は、4年ぶりの夏の交流会・総会を8月12日（土）に母校体育館で再開いたしました。現役の高校生とのバレーボールの交流はOBにとつて若いエネルギーを貰え中々いいものです。今年は、女子のチームが県大会出場を果たしたこともあり、ユニフォームの新調のための補助を少しではありますがありますがさせていただきます。OB会員も県大会の応援に駆けつけるなど楽しませていただきました。

三浦之照（段戸クラブ事務局 高26）



弁論部全国大会出場報告

「第28回全国中学・

高校ディベート選手権」(以下、ディベート甲子園)に出場することができました。その際、OB・OGをはじめ多くの方々からご声援をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

昨年度、本校の弁論部はディベート甲子園

にて優勝し、今年度は優勝した先輩たちの姿を見てきた生徒たちが、二連覇を目指して大会に臨みました。出場した選手たちは、周りからの期待に応えようとし、プレッシャーを感じたり葛藤したりする場面もありました。

ディベート甲子園の出場権をかけた予選である東海地区大会では、4位という悔しい結果となりました。そのため、生徒たちは勝ちたいという強い思いをもって、全国大会に挑みました。予選は会津、開成、膳所高校との試合に全て勝ち、決勝トーナメントに進出しましたが、決勝トーナメント1回戦で東海高校に敗退しました。悔しい結果ではありますが、試合の内容はどちらが勝つか頭を悩ます、とても良いもので、得票数は東海二票、岡崎一票と接戦でした。生徒たちは試合後、「今までで一番良い試合ができた。これで負けても悔いはない」と話しました。

大会を通し、選手やサポートをした部員たち一人ひとりが大きく成長したと思います。このような貴重な体験ができたのは、技術的な指導をしてくださる卒業生の方々をはじめ、先生方や保護者の方々の支えがあったことだと存じます。今後も弁論部への温かいご支援、ご声援を宜しくお願いいたします。



(文責 弁論部顧問 藤井瑞貴)

コーラス部全国大会出場報告

今年度は9月23日に三重県で開催された第76回中

部合唱コンクール高等学校部門Bグループの部において、金賞に加えて、三重県教育委員会賞をいただくことができました。昨夏に行われたNHK合唱コンクール大会において銅賞という結果に終わり、三年生を始めとして全員が大変苦しい思いをしました。その悔しさをバネに今年度は練習に取り組み、東海大会銀賞という結果に繋げることができました。その後、全日本大会全国出場に向けて日々の練習を必死に取り組んできました。その努力を評価していただけて本当に感無量の結果発表でした。全日本大会に向けて、課題曲は「水上」を、自由曲として長田弘さん作詞、三宅悠太さん作曲の「立ちつくすー混声合唱とピアノのためのー」を歌いこみしました。また、過去の先輩や恵子先生から受け継いできている「歌うことは訴うこと」という言葉を胸に、歌詞を深め、表現を豊かにできるように努めてきました。そこで10月28日にレクザムホールで行われた全日本合唱コンクール全国大会において、自分たちが作り上げてきた演奏を行い、銀賞をいただき、全国大会出場の伝統を繋ぎつつ、昨年度から一つステップアップするができました。しかし、全国に出場している他の高校さんの演奏を拝聴することで、一音の音程が全くぶれない繊細さと各パートの音が重なる心地よい一体感といった合唱のレベルの高さを感じ

ました。



ました。来年度は全国大会でもう一つ上の段階の賞が獲得できるように、部全体で実力を磨いていきます。

(文責 コーラス部顧問 八木智水)

北海道インターハイ・U18全国陸上競技大会出場

本年度の全国高校総体(インターハイ)「北海道・厚別」に2年岡部陽奈さん(女子棒高跳)が出場しました。インターハイ出場を目指しての6月東海総体では、試技数差の4位で出場権を獲得し、惜しくも出場を逃した昨年同大会の雪辱を果たしました。インターハイでは、直前に起きてしまった怪我により実力を発揮しきれませんでした。悔しさを持って臨んだ秋シーズンには、県新人優勝、東海新人優勝、U18全国大会13位という輝かしい成績を収め、来シーズンに繋がる結果を残すことができました。

また、この度の北海道遠征につきまして、岡高陸上部OB・OGの皆様方から数多くの多大なご厚意と寄付金をいただきましたことを、この場をお借りして心より感謝申し上げます。中には私が直接関わったOB・OGの方も多く、とても感慨深い思いです。金銭面だけでなく、岡崎高校の校内には棒高跳をはじめ他のフィールド種目、長距離・短距離が走るトラックなど十分な練習施設はありません。それでも環境に負けない熱意と創意工夫で、これまで通り強豪校に立ち向かいます。上記の部員だけでなく、長距離・短距離ともに冬季練習で力をつけ、来年度の北部九州(福岡)インターハイを目指します!

(文責 陸上部顧問 井上健二)



囲碁・将棋部囲碁班全国大会出場報告

令和5年7月24日に開催された第47回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会全国大会（団体）に出場しました。男子団体としては18年ぶり3回目の全国大会出場の大快挙でした。代表選手は、張思慎君（主将3年）、天野蒼空君（副将2年）、山田大智君（三将3年）です。



令和4年度秋の県大会で準優勝し、東海大会に進出するも決勝で東海高校に敗れ準優勝、全国大会出場を逃しました。令和5年度春の県大会では、東海高校に雪辱を果たし、見事全国大会への切符を手に入れることができました。全国大会初戦は秋田高校。3名とも優勢に試合を進めていましたが、一瞬のミスが命取りとなり逆転負け、副将の勝利で1勝2敗でした。2回戦は前橋高校。主将・副将が順調に勝利し2勝1敗。この時点で連勝校は秋田高校だけでしたので、準々決勝進出のため、3回戦勝利に望みをかけました。3回戦は金沢泉丘高校。三将が勝利するも、主将・副将が惜しくも敗れ1勝2敗、残念ながら準々決勝に進むことはできませんでした。1次リーグで敗れましたが、生徒たちは全国の強豪校との対戦を通して、校内での対局練習では得られない緊張感と高い棋力に触れる貴重な体験をすることができました。最後にりましたが、全国大会出場に当たり、同窓会・PTAから厚いご支援を賜りました。ありがとうございました。

（文責 囲碁・将棋部顧問 日高慎吾）

放送部全国大会出場報告

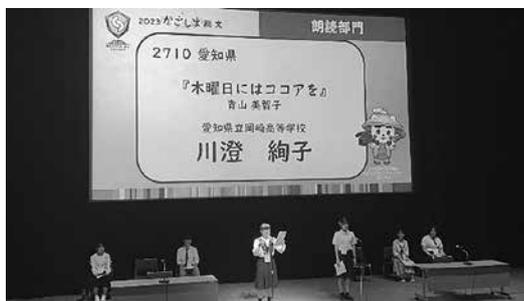
昨年8月に鹿児島で開催された第47回全国高等学校総合文化祭（以下、全国大会）に、放送部の川澄絢子さん（3年）が出場しました。その際には、同窓会より多大なる御支援をいただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

川澄さんは、一昨年11月に行われた愛知県高等学校総合文化祭県大会の朗読部門において上位3名に与えられる優秀賞を受賞し、全国大会への出場を決めました。朗読とは、指定された小説作品から抜粋した一場面を時間内に読み上げる競技で、その審査項目には、滑舌や発声といった基本的な技術はもちろん、物語の全体を把握した上での間の取り方や場面運びも含まれます。

川澄さんは、全国大会への出場を目指して、他の部員とともに日々発声練習を行っていました。このような地道な努力の積み重ねが最後の大会で結果となって表れたことは、顧問としても嬉しかったです。全国大会の本番ではミスもなく、物語の瑞々しい感動を聴衆に伝えてくれました。川澄さんが朗読において大切にしていたことが活かされたと思います。

また、川澄さんは、全国大会に出場した経験を活かし、後輩の指導にも熱心に取り組んでくれています。先日行われた今年度の県大会では、川澄さんと同じ朗読部門に出場した2年生部員が優秀賞を受賞し、2年連続で全国大会への出場を決めました。今後も放送部への応援をよろしくお願いたします。

（文責 放送部顧問 原田 耀）



登山部全国大会出場報告

今年度、女子チームとして初めてインターハイ出場を果たすことができました。その際にはOBの方々から多大なるご支援をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

一昨年度は初めての東海大会進出、昨年度は初めて東海大会入賞（3位）と、着実に力を付けてきました。それでも男子とともにインターハイに出場することを目標に頑張ってきたこともあり、悔しい思いもありました。今度こそ、と迎えた今年度の県総体で、女子は目標にしていた優勝を勝ち取り、初めてのインターハイ出場を果たしました。男子は3位となり、インターハイ出場は逃しましたが、東海大会では3位となり、男子も初めての東海大会入賞を果たすことができました。

インターハイは8月7日から11日まで北海道の大雪山系、十勝岳連峰を舞台に行われました。初出場が緊張もしたと思いますがよく健闘し、これまで3回出場した男子よりも上位の12位という成績を収めることができました。

来年度こそ男女ともにインターハイ出場を果たし、さらに今年度以上の結果を残せるようにと、1・2年生も練習に励んでいます。今後とも応援よろしくお願いたします。



（文責 登山部顧問 小島洋平）

令和5年度

部活動報告

◀ 全日制

野球部

(男子46名 女子6名)

今年度は1年生19名が入部しました。総勢52名の大所帯となり、互いに切磋琢磨しております。限られた時間と練習環境ですが、部員は前向きに野球に取り組んでいます。練習メニューを自分達で考え、「やらされる」ではなく、「自ら進んでやる」というスタイルで練習しています。

文武両道を掲げ、貴重な時間を使い効率のよい練習に努めています。OBの皆様の温かいご支援に感謝しています。今後とも変わらぬ応援よろしくお願いたします。

ソフトテニス部

(男子32名 女子23名)

県下で最も熾烈な争いが繰り広げられているといわれる西三河地区において、本校ソフトテニス部は県大会、さらには東海大会、インターハイ出場を志し、日々練習しております。令和5年度の総体予選団体戦では、男子は県大会に出場しました。その後、新チームに代替わりをし、9月に行われた新人戦では、男子個人で、「田崎・三田組」が西三河予選を突破し、県大会に出場しました。現在も団体戦での県大会出場を目標に掲げ、練習に励んでおります。今後ともご支援よろしくお願いたします。

卓球部

(男子32名 女子15名)

総体予選では、男女とも団体での県大会出場はなりませんでしたが、個人戦においてはよく健闘し、男女ともダブルス1組、シングルス1名が県大会への進出を果たしました。戦力的には厳しい状況が続いていますが、総体においては連続して県大会への出場が続いています。男子は夏の西三河リーグ戦において久しぶりに1部での戦いとなりましたが3位に入賞し来年度も1部で強豪校と戦えることとなりました。県下で最もレベルの高い西三河地区のため、新人戦では男女とも健闘しましたが県大会への出場権は取れませんでした。現

在、部員一同、総体での県大会出場をめざして熱心に練習に励んでおります。OB会が最近では実施できておりませんが、後輩の指導をしい、日々の練習への参加を是非お願いたします。またよろしければOBやOGチームへの登録もお願いたします。部を預かって20年となる顧問の太田先生の後継者の育成も急務となっております。OB教員の方の赴任が可望されるところでです。

バレーボール部

(男子28名 女子13名)

バレーボール部は、自分たちで練習メニューをしつかり考え、向上心をもって日々熱心に練習に励んでいます。コロナの影響も落ち着き、以前のような形で練習試合や大会を行うことができるようになってきました。今年度は、男子は西三予選を勝ち抜き、県大会出場を目標に、女子は県大会で1勝することを目標に、部員全員の力を合わせて頑張っていました。また、今年度は8月にOB・OG会を数年ぶりに実施することができました。今後ともご声援のほど、よろしくお願いたします。

バスケットボール

(男子35名 女子28名)

男子は、部員同士で互いに意見を交わしあいながら自分のバスケを作っていくことを目標に活動しています。それぞれが自分の強み弱みを理解し、チーム一丸となってプレーし、大会では多く勝ち進めるよう日々練習に励んでいます。女子は、日々、切磋琢磨しながら、向上心を持って活動しています。今年度は、県大会出場という高い目標を掲げ、前向きに練習に取り組んでいます。今後も、部員同士協力しながら、目標達成に向け、努力していきます。

ラグビー部

(男子12名 女子3名)

今年度は一年生が七人(うちマネージャー二人)入部し、二年生八人(うちマネージャー一人)の十五人で活動をしております。選手登録が十二人ということもあり、刈谷北高校との合同チームを継続し、第二〇三回全国高等学校ラグビーフットボール大会には十人制で出場しました。

今年度の新人戦も十人制の大会に出場し、愛知県第三代表として東海大会に出場します。なかなか人数がそろわない厳しい状況ではありますが、部員は一生懸命、ラグビーを楽しみなが結果を出してくれています。今後ともご協力よろしくお願いたします。

ハンドボール部

(男子43名 女子20名)

我々、令和5年度ハンドボール部は、今年も先生方や先輩方の厚いご支援、ご指導のおかげで、順調に部活動をさせていただいています。1、2年生も男女ともほぼ全員が初心者からハンドボールを始めていますので上達するにはなかなか時間がかかりますが、西三予選を勝ち抜き、県大会で戦えるチームを目指して日々努力を重ねています。

先輩方から受け継いだ伝統を後輩へと繋いでいけるよう、練習に励みますので、これからも厚いご支援をよろしくお願いたします。

陸上部

(男子27名 女子28名)

本年度の陸上部は、1年生23名、2年生13名、3年生19名の計55名で、長距離・短距離フィールドブロックに分かれて活動してきました。春の高校総体では8名が県大会へ進出し、県大会では2年岡部陽奈が女子棒高跳で優勝し東海大会に進出しました。東海大会では、試技教差の4位に入賞し、北海道インターハイに出場することができました。インターハイでは実力を発揮しきれませんでしたでしたが、秋シーズンには県新人優勝、東海新人優勝、U18全国大会13位という輝かしい成績を収めました。また、この度の北海道遠征につきまして、岡高陸上部OB・OG会の皆様方から数多くの多大なご厚意と寄付金をいただきましたことを、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

愛知県高校駅伝大会では、男子が2時間26分13秒で15位、女子は1時間29分11秒で22位になりました。また、岡崎市民駅伝では男子が6位、女子が7位となりました。今後も心身ともに成長できる部であるよう活動していきます。応援よろしくお願致します。

体操部

(19名)

本年度は新入生が7名入部し、19名になりました。部員の多くは初心者ですが、昼も自主練を行うなど大変熱心に活動しています。鈴木晶子コーチのもと、今年度は団体種目で総体は支部予選で3位、県大会でも6位入賞を果たしました。また新人戦は支部予選で優勝、県大会にも出場しました。貴重な練習時間を大切に、部員・コーチ・顧問一丸となって頑張っておりますので、応援のほどよろしくお願いたします。

水泳部

(男子46名 女子21名)

令和5年度は12名の新入部員を迎えました。総部員数が70名弱という大所帯ではありますが、各々の目標を持って日々努力できていたと思います。男女とも、何名もの生徒が総体予選や新人戦で標準記録を突破し、県大会出場を果たすことができました。今年度は惜しくも東海大会に出場することはできませんでした。今年度は惜しくも東海大会に出場することはできませんでした。今後各個人が満足のいく成果が残せるように、個人としてもチームとしても頑張ってください。応援のほどよろしくお願ひ致します。

柔道部

(男子2名 女子2名)

部員数は2年生3名、1年生1名の合計4名です。少ない人数でも日々の練習に集中して取り組み、大会では一試合でも多く勝ち上がるよう地道に努力を続けています。打ち込み用マットはもう廃棄寸前の使い込み具合ですし、未経験者で入部した生徒はついに初段を取得しました。卒業生の皆様、ぜひ道場に足を運び可愛い後輩達に稽古と備品の支援をお願い致します。

剣道部

(男子9名 女子5名)

令和5年度春の総体予選では団体では男子は7位、女子は5位(県大会出場)、個人では女子が5位(県大会出場)という結果に終わりました。その後新体制で臨んだ秋の新人戦では、団体では男子は2回戦敗退、女子は7位、女子個人では5位(県大会出場)でした。

少ない練習時間の中で、内容や取り組み方を工夫して技術の向上を図り日々稽古に励んでいます。春の総体では県大会出場以上の結果が残せるように精一杯稽古に取り組んでいます。OB、OGの方々、今後とも応援よろしくお願ひいたします。

弓道部

(46名)

令和5年度も15名の新入部員を迎えることができました。今年度も中日本弓道近畿選手権大会2位をはじめ、各種大会で活躍しております。OBの方々からは、弓の寄贈、直接の御指導等、多くの応援をいただいております。感謝の想いを忘れず練習を続けています。長年講師をしていただいた近藤先生の退任もあり、色々な想いを受け継ぎながら、今後も精進を続けてまいります。応援よろしくお願ひ致します。

登山部

(37名)

今年度は、1年生18名、2年生5名、3年生14名で活動を行いました。合宿については、夏は1泊2日で白山と2泊3日で八ヶ岳で行い、春は1泊2日で鈴鹿山脈で実施をする予定であります。

大会については、愛知県高等学校総合体育大会において、女子が優勝、男子が第3位となりました。その結果、女子が全国高等学校総合体育大会に出場し第12位、男子が東海高等学校総合体育大会に出場し第3位という結果をおさめました。また、愛知県高等学校新人体育大会においては、男子が優勝、女子が第2位という形で今年度の大会を終えております。同窓生の皆様におかれましては、今年度も大会出場に当たり温かいご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

サッカー部

(60名)

今年度は、選手権大会では県大会出場を果たし、目標であった一回戦突破を達成することができました。U-18西三河地区2部リーグにおいても、第2位という結果で、来年度からは西三河地区1部リーグに昇格します。

OB会長山本親先生をはじめOBの皆様には、様々な御支援をいただき大変お世話になっております。今年度からOB会も再開しました。皆様の御参加をお待ちしております。今後も良い御報告ができるように精進してまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

女子ソフトボール部

(17名)

令和5年度1年生は5名が入部し活動しております。経験者が多く、試合も成り立ち、強豪校とも練習試合を行い力をつけております。夏の県選手権はくじ運もよく県ベスト16に入ることができました。新人戦はくじ運に恵まれず決勝トーナメント敗退となり、県大会出場を逃しました。冬は総体に向けて試合形式の練習を増やしスキルを磨いております。今年度のOG会も多くのご参加ありがとうございました。OG会で現役生に刺激を与えていただければ幸いです。来年度も、夏冬と2回開催しますのでお時間ありましたら顔を出していただくと嬉しいです。部員一同お待ちしております。

弁論部

(60名)

弁論部は、夏に開催されるディベート甲子園への出場・優勝に向けて日々活動しています。令和5年度は、ディベート甲子園東海地区予選4位で全国大会への出場権を獲得しました。全国大会では、決勝トーナメント1回戦敗退でした。この大会で得た経験を糧に、来年度はさらなる高みを目指して、部員全員の力を合わせて頑張ってください。

1年生も2年生の指導の下、着実に力をつけております。今後ともご声援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

文芸部

(22名)

令和5年度の部員は、1年生6人、2年生7人、3年生9人でした。兼部の生徒も多いですが、それぞれが時間をつくって原稿を書き、部誌「風薫舞(かざぐるま)」を年六回発行しています。発行前は、メッチに追われながらも苦心の末提出された原稿を並べて配列を考え、授業後に印刷室に籠って印刷し、製本をしています。年々文量、イラストともに増え、微妙な濃淡を出すための印刷技術の伝承が行われています。教員の次に印刷機の扱いを熟知しているかもしれません。近年は共同で作品を作る合作も増えていきます。発行後には合評会を開き、お互いの意見交換も行っています。

来年度も、なるべく多くの生徒の皆さんに読んでもらえるよう、部員一同よい作品づくりに励んでいきたいと思っております。

数学部

(45名)

数学部は、数学に興味・関心を持った者が集まり、教科書や受験勉強などの枠にとらわれず自由な雰囲気の中で数学を探究しています。令和5年度は「数学オリンピック」への出場と、「科学三昧 in あいち」などの研究発表会および交流会への参加を中心に活動しました。また活動曜日は月・火・木で、昨年に引き続き週3日で活動しています。

英語部

(27名)

英語部は九月に実施される文化祭のスピーチコンテストで、生徒会と共に準備・運営を担当します。当日円滑に英語で進行できるように前もって練習を重ねています。

今年度は主に月曜日と金曜日に活動しています。ディベートの練習や、ALTの先生とのアクティビティを楽しんでいます。

美術部

(15名)

本校では本格的なアクリル画に部員全員で取り組んでいます。文化祭では、昨年度の西三美術展に出展した2・3年生の作品(アートフェスタへ出展した作品を含む)と1年生の石膏像のデッサンを展示しました。また、今年度の西三美術展では、1・2年生の50号1点、30号3点が出展されました。今後もさらに技術を磨いていきたいと考えています。

書道部

(35名)

令和5年度は岡崎総合書展、高文連展、中日ジュニア書展、国際高校生選抜書道展(書の甲子園)に出展しました。文化祭では作品展示を通して書道の魅力を伝えました。

墨の香りにつつまれて行う活動は忙しい毎日の中で心を落ち着かせる大切な時間となっています。今後も色々な書体で「個」を表現し、「書」という「美」を追求していきます。

家庭部

(31名)

家庭部は、毎週金曜日の授業後に本館1階の調理室で活動しています。部活中は美味しそうな匂いと和やかな雰囲気にもまれ、お菓子作りをしています。

本年度は2年生が15名、1年生が16名と賑やかに活動しています。毎年行っている文化祭の食品バザーでは、2年ぶりにカフェを開くことができました。お客さんに安全に提供するために、多くの制限があった中、何度も試作を重ね、部員皆で工夫を凝らし、バザーは大成功でした。当日は、多くのお客さんから「おいしかったよ!」という言葉頂き、完了した時の嬉しさ、そしてやり遂げたあとの達成感を全員で共有することができました。

美味しいものを作って皆で食べることは、幸せを感じる大切な時間です。そんな素敵な時間を共有できるように、これからも活動していきたいと思っています。

茶道部

(38名)

茶道部は毎週水曜日、講師の手島美和子先生のご指導のもと、西館の作法室で活動しています。

今年度は1年生7名を迎えて活発に活動しています。部員数は3学年合わせて38名となり、藁、茶筌、茶杓、建水、水差し、数々の道具と華やかな甘い季節の和菓子和薫り立つ深緑の抹茶に囲まれて楽しく活動をしています。

茶道部の最大のイベントである文化祭のお茶会には、新型

コロナが5類に移行したこともあり、先生方や多くの生徒の皆さんに来ていただきました。お茶席では、緊張しながらも一人ひとりが日頃の練習の成果を披露することができ、充実感や達成感に満ちた1日となりました。

今後も「和敬静寂」を心に留め、部員一同お稽古に励みたいと思います。

華道部

(8名)

活動日は年間24回。楽しく和やかな雰囲気で行っています。普段は、部員が交代で来客用玄関に作品を展示させていただくことで技術の向上をめざし、文化祭では、各々が趣の違う花を前に、真剣に考えながら立派な作品を作り上げました。

写真部

(36名)

高文連主催の写真展には春にある西三支部「高校生春の写真展」、秋の西三支部「高校生の写真展」、年明けの県高文連「高校生の写真展」があります。今年度もこの三つの高文連写真展に出展し、他校の写真部と写真の技術を競い合いました。また、昨年の県高文連「高校生の写真展」で選ばれた作品が「アートフェスタ」に参加できました。

校内では、行事の裏方として球技大会、体育大会、文化祭、スポーツ大会などの学校行事で記録写真を撮影しています。撮った写真は学校のホームページ、岡高新聞、学友等の校内誌等に使われています。文化祭では一階東渡り廊下をお借りして、写真部の展示も行いました。行事以外の活動日は木曜日の授業後で、テーマを決めて撮影会を行ったり、撮影した写真を持ち寄ってプリントしたり、作品について話し合ったりしています。今後も芸術性の高い写真を目指し、技術の向上に努めていきます。

コーラス部

(57名)

今年度も近藤恵子先生の御指導の下、「響け!心のハーモニー」を合い言葉に、部員57名で日々の練習を積み重ねてきました。

NHK全国学校音楽コンクールでは東海北陸大会で銀賞をいただくことができ、3年生をはじめ喜びの涙を流すとともに金賞ではなかったことに悔しさを抱きました。そこからさらに練習に励み全日本合唱コンクールでは、全国大会出場を果たし、銀賞を受賞することができました。また、6月には名古屋フィルハーモニー管弦楽団さんからのご厚意で名

古屋フィルハーモニー交響楽団第491回定期演奏会の舞台にて歌わせていただくという貴重な体験をさせていただきました。

生徒達が伸び伸びと活動を続けるにあたり、コーラス部OB会からは多大な御支援を賜り、心より御礼申し上げます。

演劇部

(19名)

今年度は12名の1年生が入部し、にぎやかに活動しています。岡崎市せきれいホールで開催された夏の大会では音響効果賞を、冬の合同発表会では照明効果賞を受賞しました。何回生の先輩が製作されたか不明ですが、クリム色のドアは今も大会や文化祭の3年演劇で活躍しています。

JRC部

(10名)

JRC部は青年赤十字(Junior Red Cross)の略で、ボランティア活動を行う部活動です。校内でのベクトルキャップの回収、花壇の整備(マリーゴールドやチューリップなど季節の花を植えました)、募金活動を行いました。能登半島地震支援の募金を急遽1月に行い、たくさん募金が集まりました。文化祭ではJRC部員による手作り作品の販売と募金(売上金と募金は赤十字に寄付しました)、さらにみあい特別支援学校の生徒の皆さんが作ったブックカバーやエコバックなどの販売を行いました。JRC部は兼部している部員が多く、全員が集まって話し合う機会はありませんが、自分たちで出来ることを考えてこれからも活動していきたいと思っています。

鉄道研究部

(13名)

令和5年の研修旅行は、夜行バスにて小倉に入り、初日は北部九州での班行動、二日目は博多を中心に班行動という形で実施し、各自の研鑽を深めました。6年度については、復活した只見線や宇都宮ライトレールなどを核に、新潟・北関東方面への研修を企画しております。部室の鉄道模型はほぼ毎週改修が続けられています。部員各自がそれぞれのこだわりを活かして自由な活動を楽しんでおります。

囲碁・将棋部

(20名)

新型コロナの5類移行に伴い、以前のような活気ある公式戦が行われた。1月末現在、囲碁・将棋とも3大会に参加した。囲碁(団体)は、夏に全国大会、秋には新メンバーで東

海大会に進出した。将棋(団体)は東海三県大会で第3位、個人では板倉悠雅君(1年)が県大会ベスト16の成績を得た。女子も含めて部員数も増え、月火金曜日授業後の限られた時間の中で対局を通して切磋琢磨している。来年度も全国大会出場を期待したい。

新聞部

(4名)

今年度も部員数が少なく、また全員兼部なので活動を維持するのが精一杯な状態です。しかし文化祭後の岡高新聞では、2年生部員を中心に一面を新聞部で編集し、クラス催事に關するアンケートを実施し、記事として掲載するなど、少ない部員数でも積極的に活動しています。伝統のある部活動を存続させるべく、部員たちも工夫を重ねています。

今後ともよろしく願っています。

放送部

(33名)

今年度の大会結果については、3年の川澄絢子が8月に全国総文祭・朗読部門に出場したのに続き、2年の柳本遙が11月の総文祭県大会・朗読部門で優秀賞を受賞し、2年連続となる全国総文祭への出場を決めました。また、1年の村上結羽が1月の新人大会・朗読部門で優良賞を受賞しました。行事については、今年度よりほぼすべての行事がコロナ前の形態に戻りましたが、卒業式などの一部行事は引き続き対面と配信のハイブリッド方式で行われ、放送部が設営等を担当しています。また、体験入学や文化祭・予催会で放映する動画製作を通し、先輩から後輩へ編集技術が継承されています。今後とも御支援よろしく願っています。

吹奏楽部

(55名)

今年度は、コロナ禍の影響や部活動の地域移行の流れで中学校の部活動が縮小したこともあり、部員数が例年より若干減少しての活動となりました。

七月の吹奏楽コンクールでは、課題曲に天野正道氏作曲の「レトロ」を、自由曲にはハチャトゥリヤン作曲の組曲「仮面舞踏会」を選び、練習に取り組みました。特に「レトロ」はポップスの課題曲として今年とても話題になった曲で、普段学校行事などで楽しく演奏しているポップス曲に真剣に向き合う機会は大変貴重となりました。クラシックにない様式や奏法・発音などを学ぶことができ、この夏の取り組みが今後の演奏にも活かされるのではないかと思います。

本番は、2年生20名、1年生17名という1・2年生の合計37名での演奏でしたが、ノリの良いポップスとクラシカルな仮面舞踏会が対照的でとてもメリハリのあるステージを作ってくれました。結果は昨年と同様の6位で銀賞という結果でしたが、コンクールで好きな曲を楽しむことができ、充実した夏を過ごすことができました。文化祭では「レトロ」を作曲者の意図にしたがい、エレキベースとフリューゲルホルンを入れて再び演奏しました。

一月・二月に幸田町民会館で行われたアンサンブルコンテストと個人・重奏コンテストの西三河北地区大会には、グループを組み、部員全員が出場しました。その中で、2年生のサックス三重奏がアンサンブルコンテストの県大会に進出し、金賞を受賞しました。また、フルート独奏、サックス独奏の2名が個人・重奏コンテストの本大会(中部大会)に出場しました。

3月28日には、岡崎市民会館で第23回定期演奏会の開催を予定しております。コロナ禍では演奏会の規模を縮小して2部構成としておりましたが、今回は3部構成に戻して実施いたします。

応援部

(25名)

令和五年度は、3年生9名、2年生9名、1年生7名の計25名で活動しました。戦争や災害等の暗いニュースが多い令和の時代にこそ、私たちの応援が求められています。今後とも魂の応援を継承していきます。

スーパーサイエンス部

(29名)

スーパーサイエンス部の昨年度の研究テーマは「ポケットに手を入れながら歩く危険性を明らかにする」「Arduinoで制御する車上一次式リアモーターカーの開発」「Arduinoを用いたリアクションホイールの作製」「紙の構造体で反発係数をコントロールする」「テスラコイルの放電距離を伸ばす」「エネルギー効率の高いコイルガンの開発」「すつとびボールの原理の解明」「高威力の真空砲の開発」「フェノールフタレインの合成と結晶化」「マグネシウム濃度と水の硬度の関係」「飼育密度がオオミジンコの生育に与える影響」「プラナリアにおける機械刺激受容」「植物発電土壌の性質と発電量の関係」「北山湿地におけるハルリンドウ、サギソウ、ヒメカンアオイ、水質の調査」「北山湿地日湿地再生プロジェクト」です。

昨年度は新入部員が多く、充実した活動ができました。部員は各自の研究と並行して市民向けのサイエンスワークショップ等の地域貢献活動にも取り組んでいます。

ジャグリング部

(15名)

今年も、校内のイベントに、積極的に参加しました。工事の影響で活動場所が制限されたこともあり、学校だけでなく自宅でも練習に励みました。練習を重ね、技の向上に努めています。

◀ 定時制

ソフトテニス部

(男子3名 女子0名)

現在、岡崎高校定時制ソフトテニス部は、三年生三名で活動をしています。

入部から三年が経ち、少しずつではありますが、技術の向上が目に見えるようになってきました。大会での勝利を目指し、お互いに意見交換をしながら、練習に取り組んでいます。

バスケットボール部

(0名)

現在部員はいませんが、バスケット部の魅力を在校生に発信していきたいと思っています。

文芸部

(7名)

活動四年目になります。ビブリオバトルや読書会、作品集「新涼灯火」(四号)の制作等の活動を行っています。

柴田学業奨励賞受賞者

全日制 団体

コーラス部・弁論部・登山部

個人

川澄絢子・岡本莉奈・大井信一郎

定時制 個人

森田康生

ビヨンド 120 ファンド

『岡高教育基金 Beyond 120 Fund』へのご協力をお願い

平成28年に創設された『岡高教育基金 Beyond 120 Fund』では、今年度、下記のような数々の事業を行い、生徒の学習環境向上等に貢献することができました。

この基金は2,000万円の御厚志を原資として発足しましたが、継続して運営していくためには皆様の更なる御支援が必要です。

母校の後輩がよりよい学習環境で教育が受けられるよう、この基金に対して御支援を賜りますようお願い申し上げます。

【今年度の主な事業例】

●屋外用テント4張と転倒防止用おもり4セット購入

近年厳しくなってきた夏の暑さ対策のため、今年度は4張（昨年度は5張）購入しました。また、テントの転倒防止用おもり4セットも併せて購入しました。体育大会の団席（生徒の席）全てに2張以上設置できるよう、来年度も更に整備を進める予定です。

●図書館用ソファ1台と経営保育室用スクリーン（120インチ）1台購入

図書館の中央でゆったり座れるソファが欲しい、という生徒の要望に応じて、ソファを1台購入しました。また、授業・課外等で使用される約130人収容の経営保育室用に、120インチのスクリーンを購入しました。

その他、令和5年度は文型の探究活動（「文系総合」）用参考図書、進路指導部成績処理用パソコン、図書館用パソコン、ワイヤレスマイク（式典・集会用）を購入し、全国大会・東海（中部）大会に出場した登山部、陸上部、コーラス部、囲碁将棋部、SSH部、弁論部、放送部への支援を行いました。



屋外用テント



図書館用ソファ



経営保育室用スクリーン

【基金への寄付方法】

◆ 支援の方法：銀行に振り込んでください（金額の設定はしていません）

- | | | | | |
|--------------|------|----------------|-----|--------|
| ◎三菱UFJ銀行岡崎支店 | 普通 | 0245488 | 口座名 | 岡高教育基金 |
| ◎岡崎信用金庫 本店 | 普通 | 9121259 | 口座名 | 岡高教育基金 |
| ◎ゆうちょ銀行（払込） | 口座番号 | 00820-0-188447 | | |
| | 加入者名 | 愛知県立岡崎高等学校教育基金 | | |

◆ 他行からゆうちょ銀行に振り込む場合

- ◎ゆうちょ銀行 店名089 当座 0188447

※振込みの際には、「お名前」、「卒業年次」または「会員番号」を御記入ください。

同窓会活動協力金のお願い

岡崎高校同窓会長 増田 義彦

本年も同窓会報『あゝ江山 第57号』をお届けできことができました。この会報は、ご住所の判明している25,000余名の同窓会員に毎年発送しており、その到着率は99%にも達しています。卒業生の心の絆であり母校を顧みる機会として大きな役割を担い、まさに、会員相互の絆を保ち、旧交を温め、母校に想いを寄せる岡高同窓会活動の原動力といえます。

さて、本同窓会では、平成30年度より「同窓会報発行協力金」を「同窓会活動協力金」と名前を変え、幅広く同窓会活動をご支援いただけるよう改めました。また、創立120周年記念事業として「岡崎高校教育基金」を創設し、PTAと同窓会員のご寄付を財源とした教育環境支援活動も実施しています。

「同窓会活動協力金」にR5年度は、583名の個人と4団体から総額¥3,040,155のご寄付をいただきました。ご支援いただいた皆様のお気持ちは、同窓会活動の力強い支えとなっています。ご寄付いただいた方々、お一人お一人に心よりお礼申し上げます。

コロナ禍が明け活動を再開した同窓会活動では、残念ながら、単年度収支で毎年約200万円弱の赤字が継続することが見込まれています。下図の円グラフに示したR5年度予算のように、この赤字分は特別会計を取り崩すことで収支を合わせています。したがって、このまま取り崩しが続くと特別会計が枯渇し活動継続の困難が予想されます。そのような事態となる前に同窓会としても財政基盤の安定を確保するため財政検討委員会を設け活動しており、その一つとして、収入源をこれまでの同窓生個人のご寄付と卒業生からの入会金の2本柱に加えて、3本目の柱として企業様から広告費としてご支援いただく受け皿の準備を進めています。

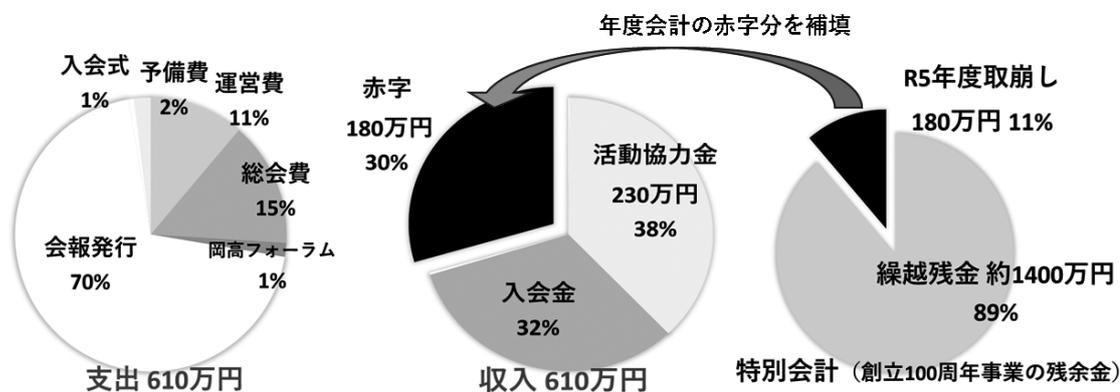


図. R5年度同窓会会計（予算）

会員の皆様にはぜひ本会の会計事情をご理解いただき、岡高同窓会が持続するよう継続的なご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。活動協力金の振込は、同封した払込用紙をご利用ください。

また、他行のインターネット、ATMから振込もできます。その場合は、下記の口座番号の読替にて振込をお願いします。振込手数料は同窓会持ち（振込先払い）で結構です。

【協力金額】 1口2,000円 1口以上何口でも結構です

【振込み先】 ゆうちょ銀行 口座番号 00890-8-20927
加入者名 愛知県立岡崎高等学校同窓会

【ゆうちょ銀行以外の金融機関からのインターネット、ATM振込方法】

銀行名：ゆうちょ銀行、金融機関コード：9900、店番：089、

預金項目：当座、店名：〇八九店（ゼロハチキユウ店）、口座番号：0020927

※振込人名義には、氏名の後に、「中（チュウ）」、「併（ヘイ）」、「高（コウ）」、「定（テイ）」、「教（キョウ）」、または「職（シヨク）」に、卒業回「**カイ」または卒業年「**ネンソツ」を追記してください。

同窓会ホームページを新装リニューアルします

(R6年5月リリース予定) <https://www.okakoudousoukai.com>



同窓会ホームページは、同窓活動の情報提供ツールとして2013年に立上げ、その後10年間、同窓会メンバーの尽力により維持されています。今回、スマホ画面で見やすく、また利用度の高いホームページに生まれ変わります。従来のHPで提供していた内容に加えて、新装したHPには以下の特長があります。

1. スマホ画面で見やすく、操作しやすくなりました。
2. 同窓会活動への寄付をHPから多様な方法でネット支払いできます。
(同窓会活動協力金、岡高教育基金、企業広告掲載協力金)
3. 同窓生が情報源として利用しやすい企業広告が掲載されます。
4. 同窓会事務局への連絡がHPから投稿できます。
(記事の掲載依頼、住所変更、消息連絡、各種問い合わせ、など)
5. 同窓会報「あゝ江山」の閲覧ができます。

今後、同窓会ではHPの維持体制の整備をすすめていきます。HPのリニューアルにあたり三重県立宇治山田高校同窓会HPを参考にさせていただき、ご支援もいただきました。紙面を借りてお礼を申し上げます。

ホームページ掲載の企業広告募集中

同窓会HPに、暮らしの中の困りごとや同窓生のイベント開催に役立つお情報などを紹介する広告ページがあったら便利だとは思いませんか？ そのような特長がある広告の掲載をしていただく企業を募集しています。

詳細は、新しい同窓会HPで募集要項の確認、申込ができます。または、メールでお問い合わせください。(費用：掲載費¥10,000/年、初回費用¥2,000) okakoudousoukai@gmail.com

2023年度版同窓会名簿 購入申込み受付中！

2024年1月、同窓会名簿が7年ぶりに改訂発行されました。創立以来125年を超える歴史の中に岡崎高校を卒業された37,000余名の同窓生の絆を集約しました。ぜひご購入くださいますようお願いいたします。

2024年1月発刊

販売価格 1冊 **7,500** 円(送料・消費税込み)

名簿には、毎年の同窓会報の発行に並行して調査しております皆様からの更新情報を利用して、氏名(旧姓)・住所・電話番号・最終学歴・職業が掲載されています。

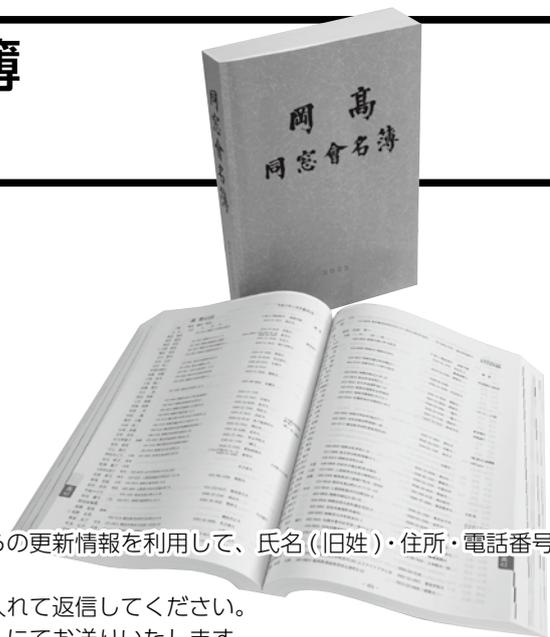
名簿購入を希望される方は、調査用はがきの購入申込欄にチェックを入れて返信してください。

お申込みいただきました方には、名簿を代金引換(ヤマトコレクト便)にてお送りいたします。

なお、今回お送りしました封筒の中に同封されています 3枚の振込用紙は名簿購入用のものではありませんので、名簿代金の振込には使わないでください。

※名簿には、会員の皆様の氏名(旧姓)・住所・電話番号・最終学歴・職業が掲載されていますが、今後もより精度の高い情報を維持していくためにも、**同封の調査用返信はがきにて変更情報をお知らせください。**

お問合せ先 **ブラザー印刷株式会社 岡崎高校同窓会名簿係**
〒444-0834 岡崎市柱町福部池1-200
電話 / 0564-51-0651 FAX / 0564-54-2405
E-mail / okakomeibo@brother-p.jp



令和6年度 総会のご案内

日時 6月9日(日) 11:00～14:00
 場所 竜美丘会館
 日程 総会 11:00～11:50
 懇親会 12:00～14:00
 会費 七、〇〇〇円

※参加された古希年次の皆さまのお祝いも
 します。

全日制 高校第25回(昭48年卒)
 定時制 高校第23回(昭49年卒)
 企画運営担当回
 メイン 全日制 高校第47回(平7年卒)
 サブ 全日制 高校第37回(昭60年卒)
 第56回(平16年卒)
 定時制 高校第53回(平16年卒)

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)
事業に関する卒業生調査への「協力」のお願い

対象：高校55回生(平成15年3月卒業)

調査期間：2024年5月1日
 ～高校76回生(令和6年3月卒)
 ～2024年11月30日

方法：インターネット上で実施します。

調査用フォームのQRコードを読み
 取り、質問に回答してください。

質問項目：氏名、卒業年、卒業後の進路・所属・
 職業、本校在学時のSSH活動への
 参加の有無など



※ご提供いただいた情報は、本校
 SSHの成果を検証するために活
 用し、それ以外の目的では使用い
 たしません。検証結果は科学技術
 振興機関等に報告しますが、その
 際、個人が特定されることがない
 よう配慮いたします。

各地区同窓会のご案内

※中止や延期に関する情報は、事前に同窓会HP
 等にてご確認ください。

第52回首都圏段戸会

日時 令和6年10月26日(土) 13:00～
 場所 アルカディア市ヶ谷
 連絡先 <http://dandokai.007.jp/>

第20回そてつ会総会・懇親会

日時 令和6年7月20日(土) 15:00～
 場所 竜美丘会館 喫茶ローレライ
 0564-25-2213
 連絡先 大久保玉恵 090-3936-4144
oka.tei@yahoo.co.jp
 LINE ID : memoaru

幸田段戸会

日時 未定。親睦会と幸田町図書館に本の寄
 贈。読み聞かせ会を令和7年2月実施
 予定。その他の行事を検討中。
 連絡先 鈴木啓子(高20回)
bambutuseidou@yahoo.co.jp

第105回矢作会(関西地区同窓会)

日時 令和6年5月18日(土)
 連絡先 <http://yahagikaiz.blog.fc2.com>

第29回豊川段戸会

日時 令和6年10月20日(日)
 11時～14時
 会場 「謝謝豊橋駅前店」
 内容 総会と講演会及び総会後の懇親会
 講師 歴史研究家 市橋 章男氏
 (高24回：岡崎市在住)
 (演題は未定)
 連絡先 豊川段戸会幹事長
 北村 誠(高24回) 090-3483-9772
E-mail:macky-kitamura@m5.cafvms.ne.jp

岡高フォーラムのお知らせ

以下の通り実施いたしました。

第15回 岡高フォーラム

2023年5月20日(土) PM2:00～葵丘
 参加者：117名
 講師：酒井真知子氏(高22回)

MACHIKO JAPAN デザイナー

演題：「MACHIKO JAPAN ー縫わない
 裁たないー布からの閃き」

ファッションショーも同時開催。

第16回 岡高フォーラム

2024年1月20日(土) PM2:00～葵丘
 参加者93名
 講師：早川英男氏(高25回)

東京財団政策研究所首席研究員

演題：「2024年 日本経済の展望」

〈今後の開催予定〉

第17回 岡高フォーラム
 2024年6月22日(土) PM2:00～ 葵丘
 会費 無料

講師：藤井潔氏(高27回)

元愛知県立農業大学校長

演題：「母校が教えてくれた『見果てぬ夢』へのチャ
 レンジ精神」(仮)

第18回 岡高フォーラムは2025年1月ごろ
 に開催予定です。

詳細は決定次第、岡高同窓会HP・FB等で
 案内いたします。

今後とも素晴らしい講師をお迎えします。是非お越
 しくください。

岡高同窓会会報 第57号

2024年4月30日 発行
 愛知県岡崎市明大寺町伝馬一
 編集 愛知県立岡崎高等学校同窓会事務局

TEL (〇五六四) 五一一〇二〇一一

FAX (〇五六四) 五五一九四二一一

E-mail dosokai@okazaki-haichi-c.ed.jp

印刷 ブラザー印刷株式会社
 TEL (〇五六四) 五一一〇六五一